

表3-5 予測ばく露量の判定

取扱量	揮発性・ 飛散性	高揮発・高飛散	中揮発・中飛散	低揮発・低飛散
	大量	EP4	EP4	EP3
中量	EP3	EP3	EP2	
少量	EP2	EP1	EP1	

(3) 望ましい管理手法の区分

(1) で区分された化学物質又は粉じんの有害性のレベルと、(2) で推定された予測ばく露量をそれぞれ表3-6に当てはめ、化学物質又は粉じんの望ましい管理手法のポイントを推定し、その区分（ポイント）を「4 リスクの見積り」の「望ましい管理手法」欄に記入します。

表3-6 望ましい管理手法の区分（ポイント）

予測ばく露量	EP4	EP3	EP2	EP1
有害性のレベル				
A、a	4	4	4	4
B	4	4	3	2
C、b	4	3	2	1
D、c	3	2	1	1
E、d	2	1	1	1

(4) 現在実施している管理手法

特定された化学物質又は粉じんに対する「3 既存の災害防止対策」が、表3-7のどの内容に該当するかを確認し、その区分（ポイント）を「4 リスクの見積り」の「現在実施している管理手法」欄に記入します。

ただし、同表の内容に示す設備等が正常に機能・稼動していることが条件となります。